

皮膚科のトリビア

252

浅井 俊弥(浅井皮膚科クリニック)

<http://www.asai-hihuka.com/trivia.html>

トリビア(trivia)=3を意味するtriと+道を意味するviaでもとは三叉路の意。古代ローマで三叉路が多かったことから「どこにでもある場所」、そこから転じて「瑣末なこと」となり、今では雑学的知識、豆知識、などを意味する言葉として定着している。

本欄は、小誌・浅井編集委員が学会・研究会などで見聞きした「皮膚科のトリビア」をその都度まとめ、連載しています。ご意見等ございましたら、ぜひ小誌「声」欄までお寄せください。

●某製薬会社主催Web講演会から

令和7年3月1日

リツキシマブ療法の指標はCD19である

リツキシマブは2021年から全身性強皮症の皮膚硬化と間質性肺炎に対して保険適用となった。硬化が強い症例(modified Rodnan total skin thickness score : mRSSが高値)で、CD19陽性細胞数が多い症例に対して有効性があると考えられている。CD19はB細胞全般のマーカーで、リツキシマブを投与後の効果判定に一般的に用いられている。その理由は、リツキシマブ投与直後はそれ自体がCD20に結合しているため、CD20陽性細胞の測定が困難であるためである。

一言コメント

「リツキシマブ投与後のマーカーがCD19であるということを知った。CD19陽性細胞数の動向(減った、また増えてきた)は、今後発展するとされるCAR-Tなどの免疫細胞療法においても治療効果を判定するうえで重要である。」

●糖尿病ラウンドセッションから

令和7年3月7日

レプチン、グレリンと睡眠時間の関連

30~60歳の成人1,024例を対象としたアンケート調査、睡眠日誌からのデータと血中レプチン、グレリン濃度との関連を検討した。習慣的な睡眠時

間が8時間の場合と比較して、5時間の場合は食欲抑制ホルモンであるレプチン濃度が15.5%低くなり、反対に食欲促進ホルモンであるグレリン濃度が14.9%高くなっていた。こうしたレプチンとグレリン変化から、睡眠不足は食欲を増進させる可能性が高い。慢性的な睡眠不足が一般的であり、食料が容易に入手できる現代の西洋社会において、肥満患者が多い理由の1つと考えられる。

一言コメント

「ダイエット中は睡眠をよくとるようにという話を聞いたことがあるが、こういったホルモンの関連があるとは知らなかった。レプチンと皮膚症状の関連については、次の項目を参照いただきたい。」

●糖尿病ラウンドセッションから

令和7年3月7日

脂肪萎縮症という難病

脂肪萎縮症は予後不良な指定難病で、遺伝子異常による先天性のものと、自己免疫などによる後天性のものがあり、そのそれぞれに全身性脂肪萎縮症と、下肢などに限局する部分性脂肪萎縮症が存在する。脂肪組織の消失とともに重度のインスリン抵抗性糖尿病や高中性脂肪血症、非アルコール性脂肪肝炎などさまざまな代謝異常を発症する。脂肪萎縮そのものに対する根治療法は開発されていないが、脂肪萎縮に伴うインスリン抵抗性を中心とする代謝異常に対しては、レプチンの有効性が証明され、レプチン製剤(メトレレプチン)が適用となる。難治性

の糖尿病があり外見上の脂肪萎縮を認めた場合には、全身MRI T1強調画像検査と血中レプチン濃度測定(カットオフ値:男性0.6 ng/mL, 女性1.9 ng/mL)が有用である。

一言コメント

「脂肪萎縮症に合併した黒色表皮腫がレプチン補充療法で改善したという症例報告もあるようだ。またレプチンは乾癬やアトピー性皮膚炎などの慢性炎症において、炎症性シグナルを増幅させる因子として注目されているらしいが、肥満ではレプチンが低下しているという現象とは正反対のような気がする。」

●横浜市医師会第585回医学研修の日から 令和7年3月18日

SJS/TENとJAK/STAT経路の関連

Stevens-Johnson症候群/中毒性表皮壊死融解症(SJS/TEN)の病変部皮膚では、細胞内のシグナル伝達物質であるJanus kinase(JAK)とsignal transducer and activator of transcription(STAT)を活性化し、表皮細胞の壊死性障害(水疱・びらん)を誘導していることが判明した。T細胞が薬剤特異的にIFN- γ などの炎症性サイトカインを放出し、それがJAK/STAT経路を介してSTAT1をリン酸化し、それが原因で表皮細胞傷害が引き起こされる。したがって、新たな治療戦略として、JAK/STAT経路を阻害すること、すなわちJAK阻害薬の投与が重症薬疹の進行を食い止めることが期待されている。TENマウスモデルにおいて、PanJAK阻害薬のトファシチニブ、バリシチニブ、またはJAK1特異的阻害薬であるアプロシチニブ、ウパダシチニブの経口投与が、臨床的および組織学的な疾患の重症度を改善したと報告されている。

一言コメント

「極めて理にかなった治療だと思う。生命や重症眼病変を救うことにつながるだろう。早く保険収載されることを望む。」

●某製薬会社主催Web講演会から

令和7年3月27日

円形脱毛症に特徴的なトリコスコピー所見

感嘆符毛あるいは漸減毛:頭皮側が先細りになる(毛包の傷害を示唆)

断裂毛:途中で切れている(炎症による毛幹破壊を示唆)

黒点:切れた毛幹の基部が黒くみえる(炎症による毛幹破壊を示唆)

黄色点:毛孔に皮脂や色素を失った毛幹の断片(休止期に類似した状態を示唆)

短軟毛:弱々しいうぶ毛(発毛の早期の状態を示唆)

一言コメント

「とくに感嘆符毛・漸減毛は診断的な意義が大きい。脱毛斑の周囲を軽く引っ張って抜ける毛の先をみて、感嘆符毛・漸減毛を確認することもできる。ギザギザにちぎれた状態であれば、抜毛癖を考える。今後はしっかりみてみよう。」

●日本皮膚科学会東北6県合同地方会第410回例会から 令和7年3月30日

抗BP230抗体単独陽性類天疱瘡の特徴

BP230は細胞内にある接着板(プラキンファミリー)蛋白質であるため、膜貫通型蛋白質であるBP180を標的とする抗体に比べ、直接的な水疱形成能は低いと考えられている。臨床的な特徴として、皮膚病変の面積、およびbullous pemphigoid disease area index(BPDAI)スコアが軽度であること、好酸球が低値であること、治療に用いられるステロイドが低量であることがあげられる。さらに主として60~90歳代の高齢者に多く発症すること、物理的なトリガーが水疱形成を誘発する重要な因子であることも特徴である。某大学の集積では水疱性類天疱瘡と診断した患者のうち、抗BP180単独陽性が20%、抗BP230単独陽性が6%、両方とも陽性が74%だった。

一言コメント

「自身もそれなりに経験している。高齢者の四肢伸側に多いような気がする。車椅子にぶつけた場所などに水疱をきたした症例もある。物理的トリガーが関連するという意見に賛同したい。」